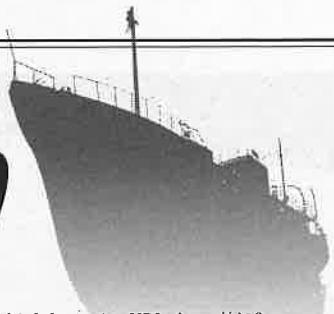
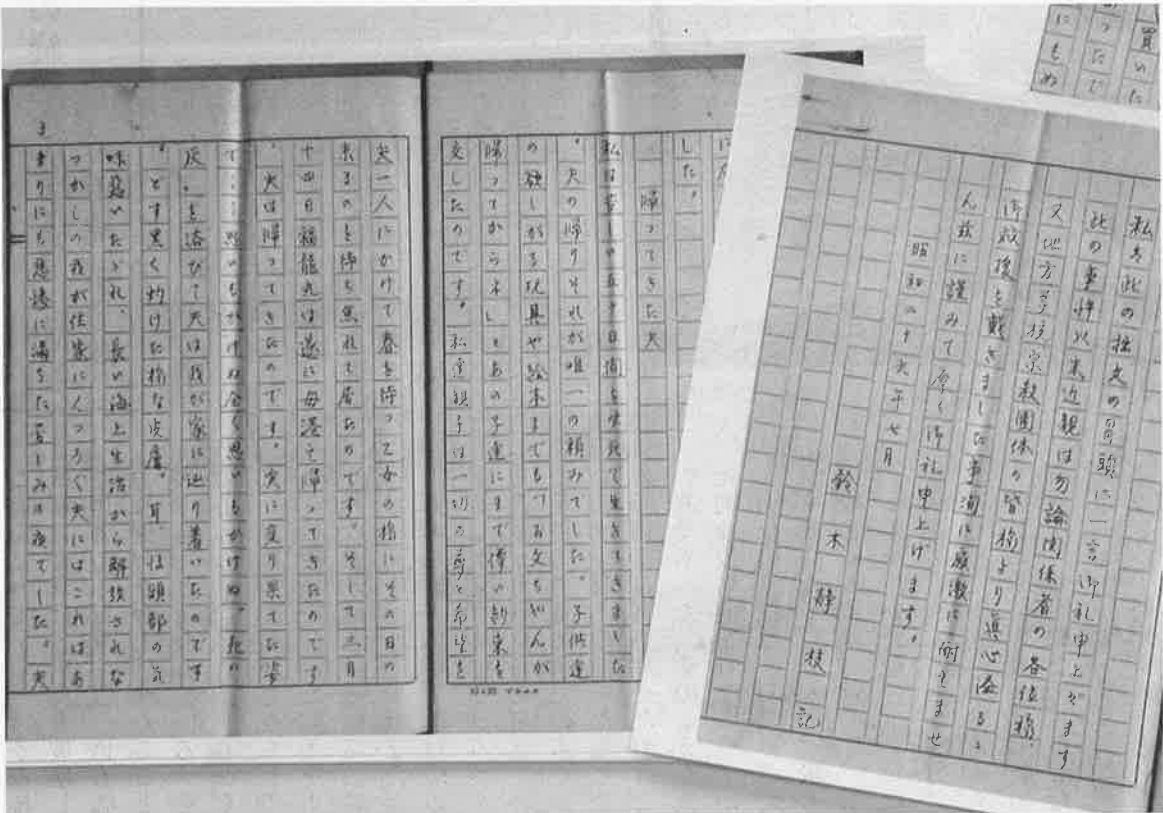


2005.03.01  
No.317

# 福竜丸だより



発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内  
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



福竜丸被災後の七月につづられた鈴木静枝さん（27歳）の手記。夫の鎮三さんは、重症患者として東大病院に入院し、被災の責任問題などについても発言していた。

## 被爆六〇年

### 広島平和記念資料館にて 第五福竜丸展が開会

被爆六〇年を記念する特別展「第三の被爆・第五福竜丸とヒロシマ」は、広島平和記念資料館と第五福竜丸平和協会の共催で、二月一五日に始まりました。

展示は、平和協会のビキニ・第五福竜丸被災事件、マーシャル諸島の核被害（島田興生写真）の展示パネル・現物資料とともに、記念資料館による「第五福竜丸とヒロシマ」のテーマでの原爆による放射線被害、「黒い雨」の跡が残る白壁やケロイド標本などの資料展示と解説、一九五五年の第一回原水爆禁止世界大会の開催など、総資料数二三〇点により構成されています。

#### 広島にある第五福竜丸 関係の資料も展示

今回の展示には、平和記念資料館が所蔵する第五福竜丸関係の資料が初めて公開され

ています。

上の写真は、乗組員の鈴木鎮三さんの妻・静枝さんが書いた手記の原稿です。静枝さんは、「広島原爆記念日を機会に『のろわれた水爆への怒りを訴えたい』と、焼津市の福竜丸被害対策本部をつうじて、『同じ悲しみを体験した広島の人々に送り、手をたずさえて原水爆の禁止を世界に呼びかけたい』とつづった」と当時の朝日新聞（54年八月五日夕刊）は報じています。

平和記念資料館の初代館長（55年八月開館）で、その前身である原爆資料館の長岡省吾館長は、五四年三月下旬に焼津を訪れ、漁労長の見崎吉男さんと面会、焼津港に繋留された福竜丸の写真十数枚を撮影、資料収集にあたっていきます。こうした経緯から、この手記が後に長岡さんに託されたと思われまます。

# ラッセル・アインシュタイン 宣言五〇年に思う

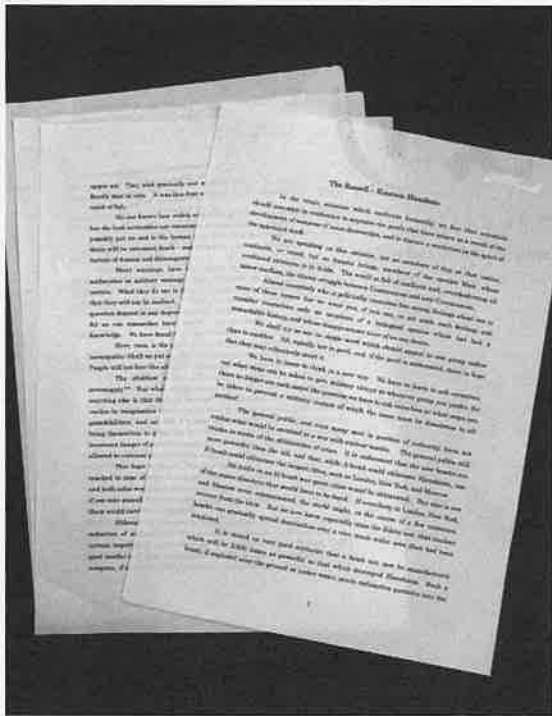
——宣言起草の経過をたどる——

川崎昭一郎

## 第五福竜丸の被災が契機に

イギリスのバートランド・ラッセル卿は、一九五四年のBBCクリスマス放送（一月二三日）で「水爆による人類の破滅」と題して多くの聴衆に直接訴え、将来起こり得る水爆戦争を次のように特徴づけた。

「疑いなく、水素爆弾戦争では大都市が消滅させられるだろう。しかし、これは、私たちが直面する小さな悲惨事の一つである。たとえ、ロンドン、ニューヨークやモスクワの全ての人々が絶滅したとしても、世界は、数世紀のうちにもその打撃から回復できるだろう。しかし私たちは今では、とくにビキニの実験以



展示館で希望者に配布している「宣言」の英文

来、水素爆弾は想像されていたよりも遥かに広い地域にわたって徐々に破壊を広げうることを知っている。確かな権威筋によれば、広島を破壊した爆弾の二万五〇〇〇倍も強力な爆弾を今ではつくること

ができると言われている。そのような爆弾は、地上近くまたは水中で爆発させられると、放射能を持った粒子を上空へ吹き上げる。それらの粒子は、死をもたらす塵または雨の形で徐々に落下し地球の表面に到達する。アメリカの専門家が危険区域と考えていた範囲の外側にいたにもかかわらず、日本の漁夫たちとこの漁獲に被害を与えたのはこの塵であった。そのような致命的な放射能を有する粒子がどの位広く拡散するのか、だれも知らない。しかし、最も権威ある人々は一一致して、水素爆弾を用いた戦争は人類に終末をもたらすことが十分にありそうだと言っている。もし多数の水素爆弾が使われるならば、全面的な死滅がもたらされるのが危惧される。そのさい、即死者はその一部で、運がいい方だが、大多数

のものは徐々に進行する病と身体崩壊に苦しみながら死に至る」。

ビキニ被災事件は、それまで核兵器で強気の推進策を取ってきた世界の首脳、政治指導者たちさえも一瞬たじろがせるだけのインパクトがあつたに違いない。人類の存亡がかかっている、核兵器爆発がもたらす被害について、もともと理解できる立場にある世界の指導的学者たちが、機を逸することなく、何かドラマティックな形で発言しなければならぬ時期が到来しているという空気がみなぎっていた。

## アインシュタインからの賛同

ラッセル卿は、まず、問題をもっともよく理解できる立場にあり、世界的に名声を博している少数の科学者が、政治的に偏っていると見られない形で呼びかけて、科学者の国際会議を行い、そこで専門家が核兵器の人類に及ぼす危険について集中的に検討し、その結論を東西首脳に送り、

返答を迫るといふ行動を起こすことを考えた。

ラッセル卿は、まず、このことをアルバート・アインシュタイン教授に伝え、考えを求めた。アインシュタイン教授は、健康上の理由で自分あまり動けないが、その考えには賛成なので実行に移してほしい、声明文はラッセル卿が作成するようにと返事し、同調していただけそうな科学者のリストを添えた。

ラッセル卿は、早速、クリスマス放送でのスピーチをもとに声明文を起草した。上に引用した水爆戦争の惨状説明は、僅かな言葉遣いの変更だけでそのまま声明文に活かした。アインシュタイン教授を始め、準備したリストに基づき、若干名の科学者に送付、賛同を求めた。

その後、アインシュタイン教授からの返事がないままに、ラッセル卿は、所用でローマからパリへ向かう飛行機内で、機内放送により教授の死（一九五五年四月一八日）を知ったのだった。ラッセル

# 久保山さんの生前 の録音をたどる 朝日新聞「声」欄の 投書

第五福竜丸展示館には、九月二三日に亡くなった久保山愛吉無線長の追悼のラジオ放送を録音したテープがある。これは、文化放送の元ラジオ局員であった金沢大作さんから一九八五年に寄贈いただいた資料である。

去る一月二六日の朝日新聞の「声」欄は、「読者がつくる記憶の歴史シリーズ」として第五福竜丸についての投稿を掲載したが、そのなかに金沢さんの投書があった。さっそく連絡を取り、当時の様子と録音のため病室を訪れた時に撮影された写真についても聞かせていただいた。金沢さんの了解を得て、投書を掲載

する。

いま展示館のビジュアルルームでは、この久保山さんの声を当時の写真と共に構成したDVDとして視聴することができる。

## 闘病の乗組員 生放送で切々

無職 金沢 大作  
(東京都中野区 七八歳)

「邦人漁夫ビキニ原爆実験に遭遇——二十三名が原子病」、こんな新聞見出しに私が接したのは、昭和二九(一九五四)年三月一六日、静岡県伊豆の旅行を終えて三島駅から帰途についた車中でのこと。その衝撃に鳥肌が立ったことを今も鮮明に覚えている。当時、私はある民放ラジオ局の局員だった。

被曝した乗組員は、東大付属病院と国立東京第一病院(「東一」、現・国立国際医療センター)に分散収容され、治療を受けることになった。

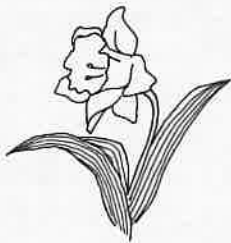
私は民放ラジオ局で街頭録音の担当をしていたが、当初、被曝の惨状についてはほとん

ど報道されなかった。私は何とかしなければと思い、報道の機会を狙った。

主治医の熊取敏之さん(〇四年一二月死去)から許可が下り、広島原爆投下と同じ日の昭和二九年八月六日に東一の病室、焼津の魚市場、広島市平和記念公園を結ぶ三元生放送を実現した。

放送中、船の無線長だった久保山愛吉さんは、入院先から焼津にいる長女みやちゃんに「良い子にしてください」と切々と訴えた。その声は今も忘れられない。子煩悩だった久保山さんは闘病生活中、三人の我が子のために慣れない手付きでセーターを編み続けていたという。

約一カ月後、久保山さんは不帰の人となった。あれから五〇年、当時の日本人の悲願だった核兵器廃絶の訴えは、かすれがちだ。



(2面からつづく)

脚は、この計画は崩れ落ちたと思っていたところ、パリのホテルで、アインシュタイン教授からの、声明案に同意する旨の手紙を受け取った。

おそらく、この手紙は、アインシュタイン教授の最後の社会的行為となったに違いない。

「ラッセル・アインシュタイン宣言」はこのようにして生まれたのである。同宣言は、その内容の面でも、誕生のプロセスにおいても実に劇的であった。

### ヒトという種の一員として の声明

ラッセル脚の原案に対して何人かの署名予定者から修正意見が出されていた。ラッセル脚は、特にジョリオ・キュリー教授の意見には注目した。同教授の健康がすぐれなかったため、同教授の意を体したフランスのピエール・ビカール教授またはイギリスのエリック・パロップ教授と意見を交わすことが何度かあった。なお、私は、ビカール、

パロップ両教授とは親交があり、個人的にも多くのことを学んだ。

宣言は、「人類が直面する悲劇的な情勢のなかで、私たちは、科学者が、大量破壊兵器の発達の結果として生じた危険を評価し、ここに添えた草案の精神で一つの決議を討議するために、会議に集うべきであると感じている。私たちはこの場合、あれこれの国、大陸あるいは信条の一員としてではなく、その存続が疑わしくなっている、人間として、ヒトという種の一員として語っているのである」で始まり、結びで科学者の国際会議の開催とそこで署名すべき決議案を提案している。

この宣言は、一九五五年七月九日にロンドンでの記者会見でパートランド・ラッセル脚から発表された。湯川秀樹教授ら一名が署名した。

ラッセル・アインシュタイン宣言は、二一世紀における地球市民としての生き方を考える際の基本となる文書である。(第五福竜丸平和協会会長・千葉大学名誉教授・物理学者)

## 北海道で手紙展

昨年秋に50周年記念の特別展の一環としておこなわれた「久保山愛吉さんとその家族に寄せられた手紙」展で公開された北海道から寄せられた手紙の展示会が札幌で開かれました。

北海道クリスチャンセンターが主催した「命の大切さを伝える写真展～“第五福竜丸”と“洞爺丸”の二隻の船がつなぐ奇跡の手紙」展です。ビキニ事件とは「縁遠い」と思われていた北海道ですが、お見舞や励ましの手紙は50通余も展示館に所蔵されています。また、第五福竜丸が水揚げしたマグロ14尾が札幌に送られ、道衛生局と北大により放射線検査、廃棄されていたことも、当時の北海道新聞の報道により明らかになっています。

久保山愛吉さんが死去した3日後の9月26日夜半、台風15号により沈没した青函連絡船「洞爺丸」に積まれ、函館郵便局で乾燥処理され、東京の国立第一病院から焼津の久保山家へと二度の転送を経て届いた手紙もそのうちの一通です。

会場には第五福竜丸被災事件の展示パネル18枚とともに、北海道からの手紙が展示紹介され、同センターを訪れた市民が足を止めて見入っていました。手紙が再び福竜丸と北海道をつなぎました。

## 保存にとりくんだ体験者からの聞き取りすすむ …ボランティアの会

第五福竜丸ボランティアの会は、福竜丸の保存運動にかかわられたさまざまな分野の体験者からお話を聞き記録していくとりくみを「福竜丸講座」と名づけて今年の初めからすすめています。

その第2回として、元東京都職労港湾

分会の矢野政昭さんから、東京水産大学に繋留されていた「はやぶさ丸」をみつけた当時（1967年初めころ）のお話をうかがいました。

矢野さんが書いた「分会ニュース」は、廃船になる第五福竜丸を報じた最初のもので、ニュースは、1967年2月28日付で、「…工事一課の近くに水産大学がありますが、ここに今第五福竜丸がつながれています。考えていたより小さな船ですが、この船をじっと見ていると、二度とこんな事があってはならないと強く感じます」と記されています。

当日は、当時江東区の教員として船の保存にとりくんだ、青木佳子さん（ボランティアの会メンバー）からも夢の島周辺の様子などを聞かせていただきました。

今後は、保存運動の中で船体の補修に当たった大工さん、組織的な保存運動が発足してからの動きなども関係者の聞き取りをすすめる計画です。

## 故・田沼肇理事の 所蔵資料公開さる

長年、原水爆禁止運動に携わり、被爆者への補償、援護、連帯の理論化と運動の推進、第五福竜丸の保存についても中心的に貢献された故・田沼肇さん（法政大学名誉教授、第五福竜丸平和協会理事、日本原水協代表理事、2000年8月9日逝去）の収蔵資料のなかで、被爆者関係、原水爆禁止運動、第五福竜丸の保存運動などのリストが、デジタルアーカイブスで公開されました。

これは、法政大学・大原社会問題研究所のホームページ「大原デジタルアーカイブス」で、「平和・原水爆禁止運動／原爆被爆者問題関係資料」の項目です。

資料は、原水爆禁止運動の初期から1980年代までであり、大原社研で閲覧

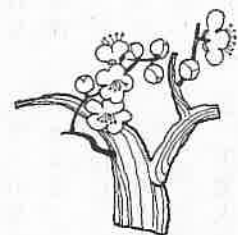
することができます。（大原社研電話0427-83-2307 <http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/arc>）

## 来館者の感想から

人の命をそまつにする人は、ぜったいに幸せになれないと思います。みんな幸せになりたいから生まれてきたのに、人の命を勝手にうばってしまうなんてゆるせません。私はぜったいに戦争に反対です。第五福竜丸は戦争のつらさを教えてくれる船だと思います。いまの日本が平和ではありません。でも私たちが変わればいいんじゃないかな。戦争がいけないことだと気づいた人がやめればいいと思います。（6年生 女子）

世界を平和にするには、核と戦争のどろぐをすべてはいしして、せんそうする心をなくしたのが本物の平和です。（6年生・女子）

第五福竜丸のようになんの罪もない船がひがいを受けてしまったことは、本当に悲しいことだと心から思いました。私がおとなになった時、どんな世界どんな時代になっているかわからないけれど、絶対に世界平和を目指したいです。（6年生・女子）



## 訂正

福竜丸だより2月号3面、本文冒頭の年月日は、1968年3月2日です。